

エコアクション21

2022年度 環境経営レポート

(2022年4月1日～2023年3月31日)



株式会社KMCT
門司メタルプロダクツ事業部

2023年7月1日 発行



環境省
エコアクション21
認定番号0001493

1

組織の概要

1. 事業所名、所在地および代表者

事業所名：株式会社KMCT 門司メタルプロダクツ事業部
所在地：〒800-0007 北九州市門司区小森江2丁目2番1号
営業部(大阪営業所) 〒541-0051 大阪府中央区今橋2丁目4番10号
代表者：事業部長 笹岡 公二

2. 環境管理責任者および連絡先

環境管理責任者：工場長 大江 和宏
連絡先：総務室室長 竹原 典章
(エコアクション21事務局)
TEL(093)381-1331 FAX(093)381-3833

3. 事業の概要

復水管、銅・銅合金管、モールド、複合製品、熱交製品、その他各種加工品の製造・販売

4. 事業の規模

売上高：54.3 億円
従業員数：165 名
敷地面積：52,000 m²
建屋面積：32,400 m²

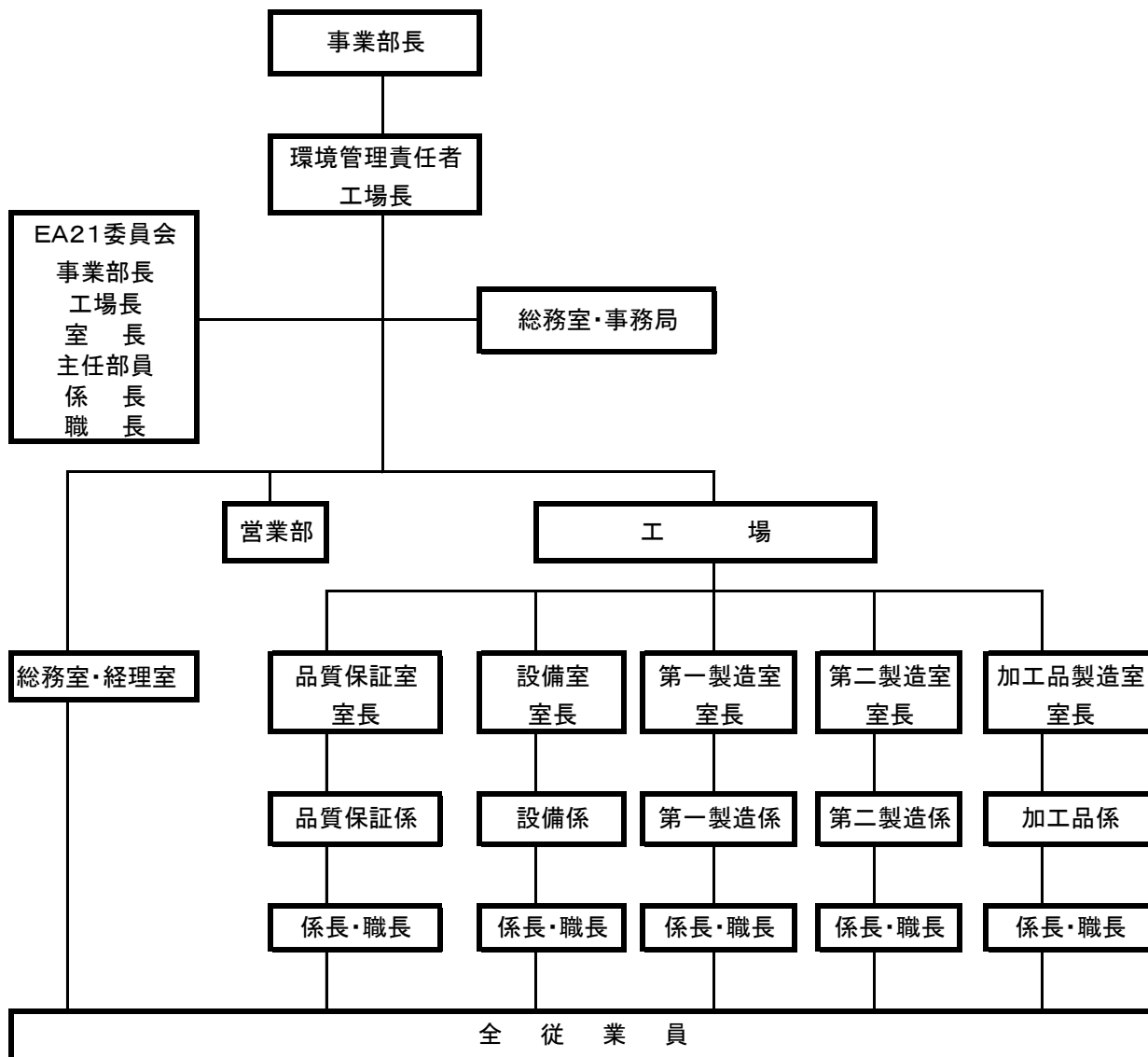
5. 認証・登録の対象

門司メタルプロダクツ事業部

6. 事業年度

4月1日 ～ 翌年3月31日

エコアクション21 推進体制表



役割・責任・権限

事業部長	環境管理の全責任を有し、環境経営方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の取組状況の評価と見直しを行う。
環境管理責任者	環境管理の総括、環境経営システムの構築・運用
事務局	文書及び記録類作成、維持、監理
室長	環境経営システムを運用するための遂行業務
係長	係に所属する従業員への環境計画の実施を図る
職長	職場に所属する従業員への環境計画の実施を図る
全従業員	環境経営目標及び計画を理解し改善活動に取り組む

環境経営方針

1. 基本理念

株式会社KMCT門司メタルプロダクツ事業部は、地球環境の保全がすべての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが使命であると認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、事業活動のあらゆる面において、環境に配慮して行動することを決意します。

2. 行動指針

全従業員参加による下記取組み等により環境経営の継続的改善を行います。

1. 事業活動にともなう二酸化炭素排出量の削減、水総使用量の削減、廃棄物排出量の削減・再資源化(リサイクル化)、化学物質使用量の削減により、環境負荷の低減を図ります。
2. 事業活動で使用する資材・用品のグリーン購入を促進します。
3. 環境にやさしい製品の生産・販売及びサービスの提供と開発に取り組みます。
4. 事業活動に係わる環境関連の法規・条例等を遵守します。
5. 社会、地域との共生を図ります。
6. この環境方針を全従業員に周知するとともに、教育・訓練をおこない、継続的な活動を推進します。

制定 平成18年10月 1日

改訂 令和 5年 1月 1日

北九州市門司区小森江2丁目2番1号
株式会社KMCT門司メタルプロダクツ事業部
事業部長 笹岡 公二

3

主な環境経営計画の取組み

1. 電力消費量の維持・削減
 - (1) 第一製造室全体
 - ・ 効率的な生産で予算原単位比(目標値)で達成する
 - (2) 加工品製造室／ 1650トンプレス
 - ・ 効率の良い設備稼働で1シフト当たりの押出し本数を増やす
 - (3) 設備室／ エアーコンプレッサー
 - ・ 台数制御の適正化を行う
2. 燃料消費量の維持・削減
 - (1) 第二製造室／ピアサー
 - ・ 適切な空燃比で調整します。
3. 化学物質購入量の維持・削減
 - (1) 加工品製造室／エチルベンゼン
漏洩、飛散、蒸発等を削減します。
4. 地金購入量の維持・削減
 - 購入屑及び社内発生屑を再利用して地金使用を削減します。
5. 二酸化炭素排出量の維持・削減
 - (1) 効率の良い設備稼働の計画、および生産性の向上に注力します。
 - (2) 各機器のエアー・蒸気漏れ防止を継続します。
 - (3) 事務所の省エネ(空調、照明、給湯器)を継続します。
6. 水使用量の維持・削減
 - 回収雨水の最大活用による水総使用量の削減を継続します。
7. 廃棄物排出量の維持・削減
 - (1) Niめっき廃液の社内処理を継続し、産廃排出量を削減します。
 - (2) 廃油【作動油】の再生使用を継続し、産廃排出量を低減します。
 - (3) 廃棄物【廃酸スラッジ、廃油、古紙等】の有価化を継続します。
 - (4) 廃棄物【廃木材、廃プラ等】の新規有価化のための調査を継続します。

1. 中期 環境経営目標

目 標 項 目			22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
1	電力使用量の維持削減	第一製造室 全体	6,606 (kWh/生産T)	5,831	5,714	5,600
2	電力使用量の維持削減	加工品製造室 1650トンプレス	74.2 (kWh/P)	62.8	61.5	60.3
3	電力使用量の維持削減	設備室 エアコンプレッサー	264.8 (kWh/生産T)	254	254	254
4	燃料消費量の維持削減	第二製造室 ピアサー	53.5 (m ³ /t)	55.2	54.1	53.0
5	化学物質購入量の維持削減	加工品製造室 エチルベンゼン	1.38 (ℓ/t)	0.99	0.97	0.95
6	地金購入量の維持削減	第一製造室 製造全体	71.6 (円/生産kg)	76.6	78.0	79.6
7	二酸化炭素排出量の維持削減※	(ton-CO ₂ /生産T)	3.03	2.75	2.695	2.641
		(ton-CO ₂)	5,426	4,843	4,746	4,651
8	水使用量の維持削減	(千ton)	25.7	25.2	25	24
9	廃棄物排出量の維持削減	(ton)	301	167	164	161

※二酸化炭素排出係数は0.37399(鉄鋼連盟自主行動計画)を使用。

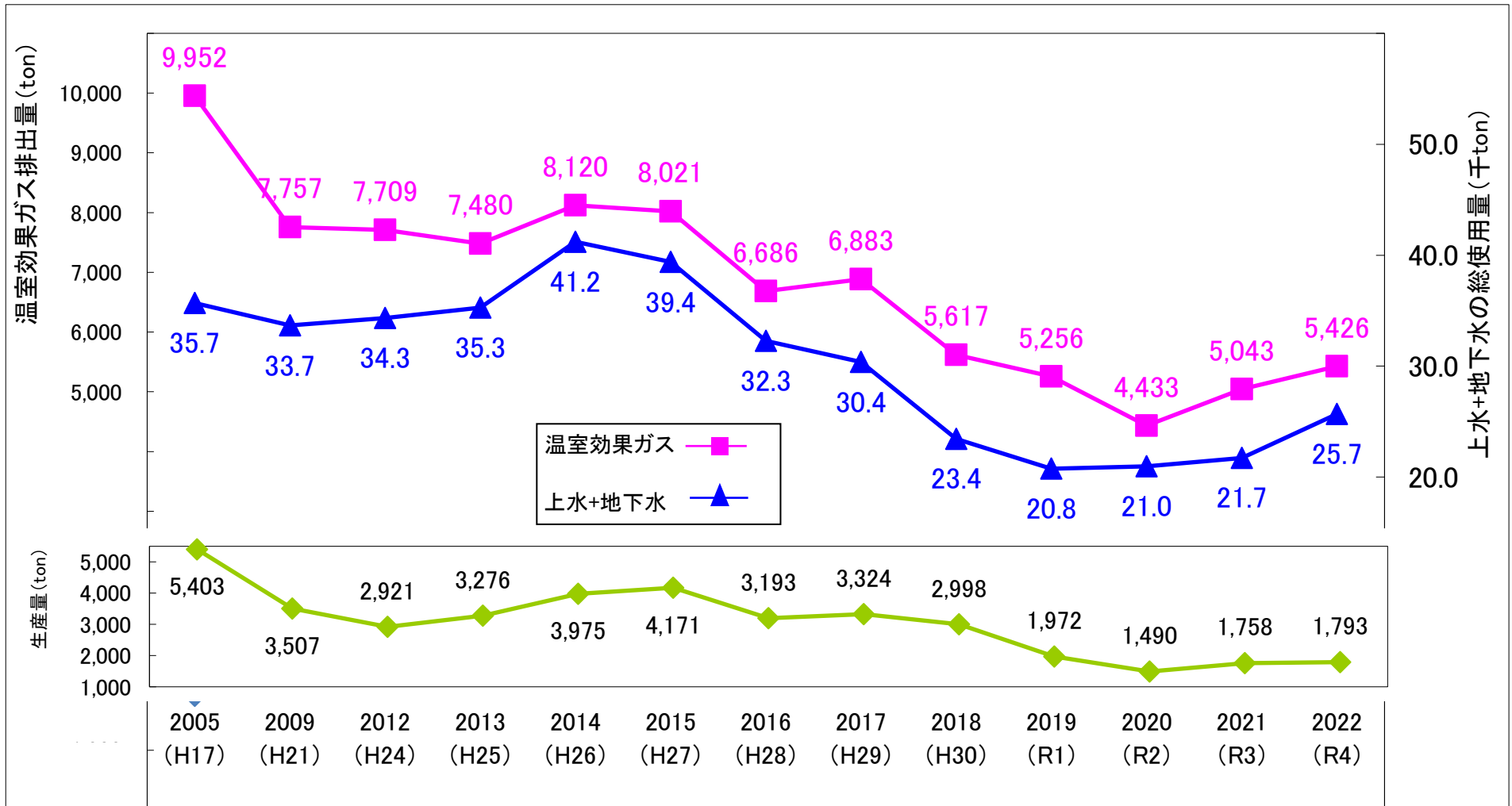
2. 目標の達成状況

今年度の環境経営目標と実績は以下の通りです。

目 標 項 目			21年度 実績	22年度 目標	22年度 実績	削減率
1	電力使用量の維持削減	第一製造室 全体	5,707 (kWh/生産T)	5,590	6,606	× (-18.2%)
2	電力使用量の維持削減	加工品製造室 1650トンプレス	103 (kWh/P)	62.8	74.2	× (-18.2%)
3	電力使用量の維持削減	設備室 エアコンプレッサー	243 (kWh/生産T)	210	265	× (-26.1%)
4	燃料消費量の維持削減	第二製造室 ピアサー	56.3 (m ³ /t)	55.2	53.5	○ (3.1%)
5	化学物質購入量の維持削減	加工品製造室 エチルベンゼン	1.10 (kg/t)	0.99	1.38	× (-39.4%)
6	地金購入量の維持削減	第一製造室 製造全体	58.0 (円/生産kg)	65.6	71.6	○ (8.4%)
7	二酸化炭素排出量の維持削減※	(ton-CO ₂ /生産T)	2.87	2.81	3.03	×
		(ton-CO ₂)	5,043	4,942	5,426	(-7.8%)
8	水使用量の維持削減	(千ton)	21.7	21.3	25.7	(-20.7%)
9	廃棄物排出量の維持削減	(ton)	174	170	301	(-77.1%)

3. 環境への負荷の状況

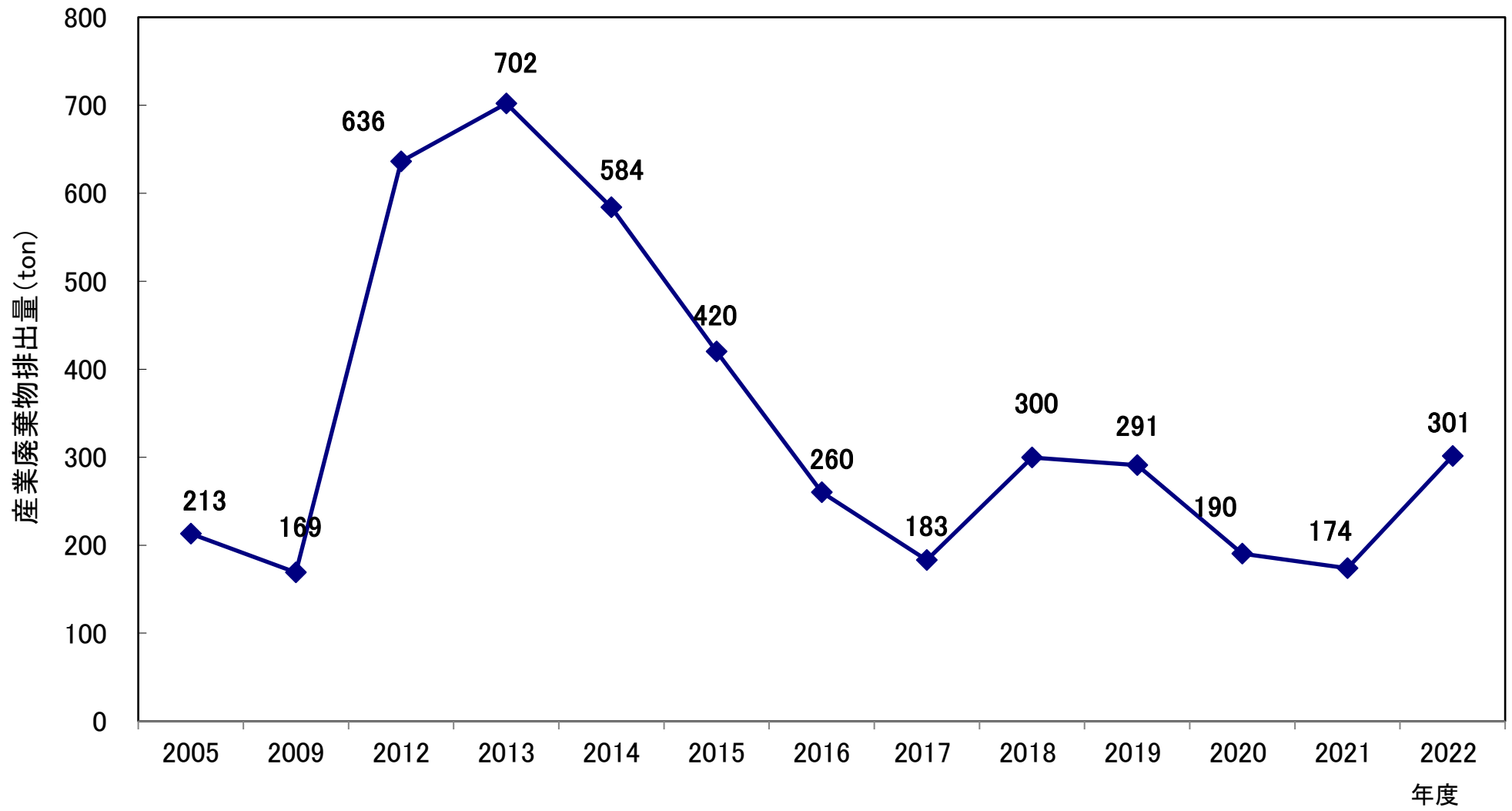
(1) 温室効果ガスの排出量、上水・地下水の使用量の推移



イコアクション21基準年 2005年(H17) イコアクション21再基準年 2009年(H21)

※二酸化炭素排出係数は0.37399(鉄鋼連盟自主行動計画)を使用。 ※2019年度より、工場設備の他、工場内車両、社用車及び内面ET車両(ガソリンを追加)を含む。

(2) 産業廃棄物の排出量の推移



5	環境経営計画の取組結果の評価
---	----------------

1. 電力消費量の維持・削減

- (1) 第一製造室全体(目標 5,590→実績 6,606kWh/ton Δ 18.2%)
 - ・溶解集塵機の故障により制御不能となり、機器の更新に時間が掛かったため原単位が悪化しました。
- (2) 加工品製造室 1650トンプレス (目標 62.8→実績 74.2kWh/p Δ 18.2%)
 - ・加熱炉のトラブルにより原単位が悪化しました。
- (3) 設備室/エアーコンプレッサー (目標 210→実績 265 l /ton Δ 26.1%)
 - ・設定した目標値が高すぎたことと生産量が増えたため未達となりました。

2. 燃料消費量の維持・削減 (目標 55.2→実績 53.5 m^3 /ton 3.1%)

- ・空熱比の調整および管理を行い計画並となりました。

3. 化学物質購入量の維持・削減

- (1) 加工品製造室/エチルベンゼン (目標 0.99→実績 1.38kg/ton Δ 39.4%)
 - ・ケニコート生産減により原単位が悪化しました。

4. 地金購入量の維持・削減 (目標 65.6→実績 71.6円/kg 8.4%)

- ・市中屑の購入メリットができました。

5. 産業廃棄物排出量の維持削減(目標170→301ton Δ 131ton)

- ・工場全体で3S活動に取り組み不用品の処分を行いました。
- ・梅雨時期に湧水が地下ピットへ流入したため、産廃として排出しました。

6 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度の主な取組内容は、以下の通りです。

1. 電力消費量の維持・削減
省エネタイプの設備を計画的に導入する。
効率の良い設備稼働の計画および生産性の向上に取り組む。
エアコンプレッサーの台数制御とエアールール箇所を修理する。
2. 燃料消費量の維持・削減
ピアサー加熱温度見直しによる使用量を削減する。
3. 化学物質購入量の維持・削減
飛散・蒸発等を削減する。
4. 地金購入量の維持・削減
購入屑及び社内発生屑を再利用して地金使用を削減する。
5. 廃棄物の分別を行い、有価化に取り組めます。

※ 目標値については、6ページ 1. 中期 環境経営目標 に記載します。

7 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等への違反の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
大気汚染防止法	大気への排出基準	○
	排ガス測定義務	○
	VOC排出基準	○
水質汚濁防止法	公共用水域への排出基準	○
瀬戸内海環境保全特別措置法	特定施設の設置・変更・廃止届	○
下水道法	特定施設の設置・変更・廃止届	○
	下水道への排水基準	○
	定期の報告	○
北九州市下水道条例	下水道排水減量の申請	○
騒音規制法	特定施設の設置・変更・廃止届	○
北九州市公害防止条例		○
土壌汚染対策法	特定施設の廃止届出時	○
毒物及び劇物取締法	陳列場所の表示義務、施錠義務および事故時の処置	○
電気事業法電気関係報告規則	PCB含有電気工作物の報告	○
廃棄物の処理清掃に関する法律		○
PCB特別措置法	PCB保管及び処分状況の報告	○
フロン排出抑制法	機器の点検及び記録の保管	○

2. 訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘及び利害関係者からの訴訟や苦情はありませんでした。

8	代表者による全体評価と見直し・指示
---	-------------------

1. 全体評価

目標項目7項目中、2項目が目標達成、5項目が未達成となりました。

(1) 目標達成

ピアサー燃料消費量の維持・削減	目標原単位に対し、3.1%達成
地金購入量の維持・削減	目標原単位に対し、8.4%達成

(2) 目標未達成

第一製造室全体の電力消費量	目標原単位に対し、18.2%未達成
1650トンプレスの電力消費量	目標原単位に対し、18.2%未達成
エアーコンプレッサーの電力消費量	目標原単位に対し、26.1%未達成
エチルベンゼンの使用量	目標原単位に対し、39.4%未達成
産業廃棄物の排出量	目標原単位に対し、77.1%未達成

2. 見直し・指示

(1) 環境経営方針

見直しなし。

(2) 環境経営目標・活動計画

- ・部署、設備単位で目標を設定して電力、燃料、化学物質の使用量削減、地金購入量の維持・削減を目標としました。
- ・環境リスクの低減と緊急事態訓練を推進します。

(3) 実施体制

見直しなし。

(4) 環境経営システム(規程・作業標準等)

最新法令に適合した規程および関連する作業標準の見直しに取組みます。